

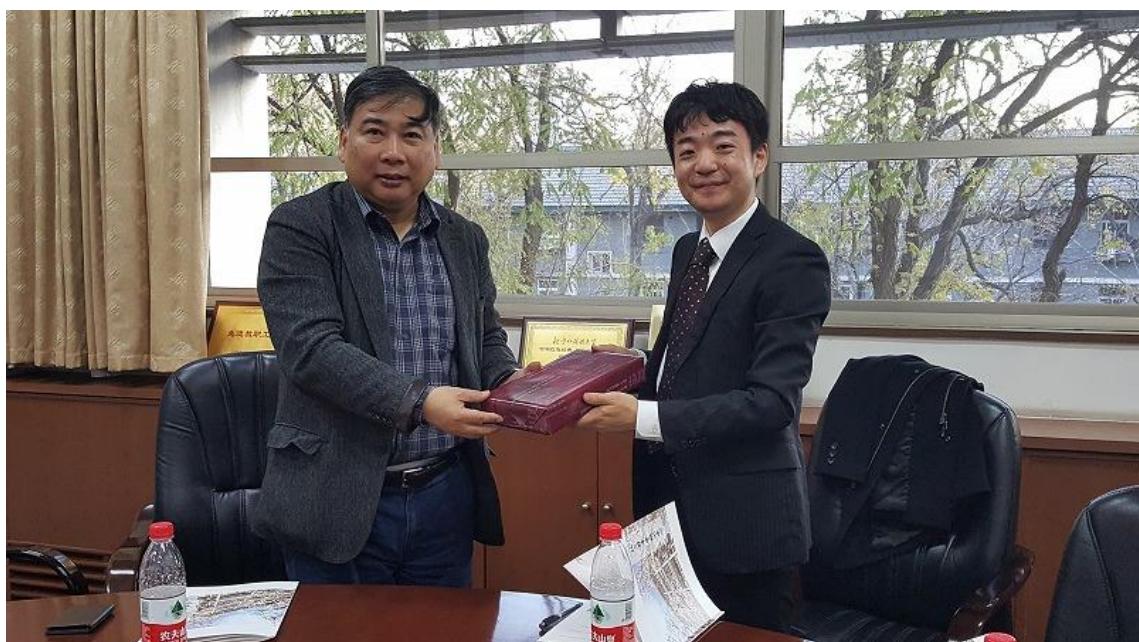
第1回青年訪中団を実施して

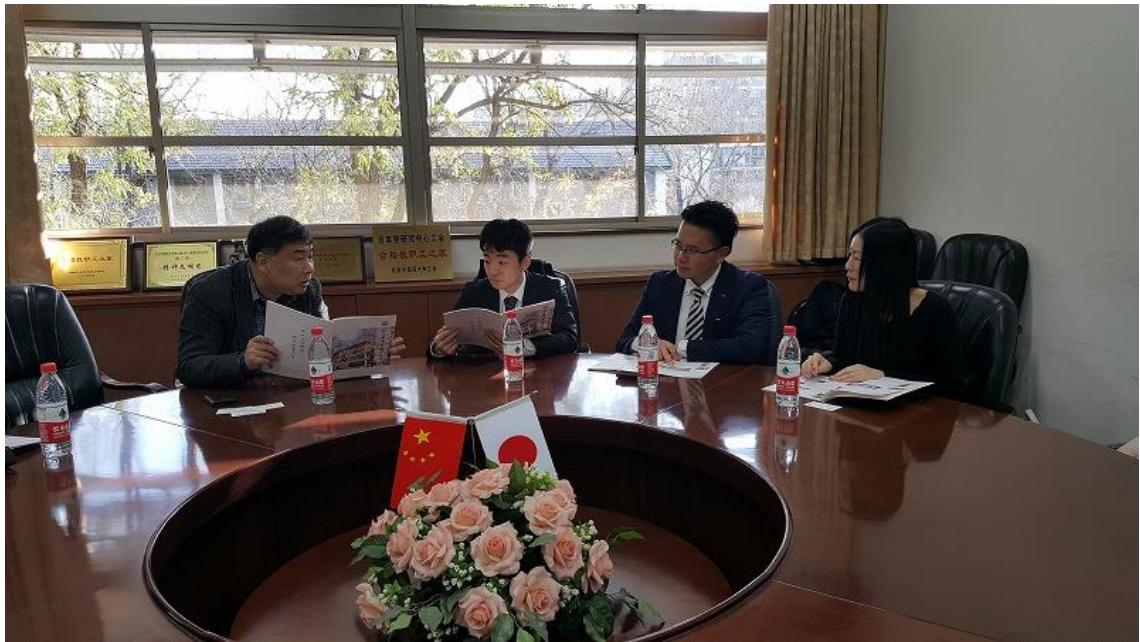
公益社団法人日本中国友協会青年委員会

青年委員会事務局長 永野剛

2018年11月22日から25日まで、青年委員会の第1回訪中団として訪中して参りました。私たちを引率して頂いたのは、中国日本友好協会友好交流部の董丹丹さんです。

まず初日の22日12時半に空港にて私たちと丹丹さんは合流しました。その後、空港から北京外国语大学構内にある北京日本学研究センターに向かいました。センター長の郭教授と会見を行いました。教授との話し合いの中では、私たちから提案させていただいた2022年に日中青年共同宣言を行いたいとの内容に対して、具体的なアイディアとして、桜の木を植樹するイベントを行うのはどうか。という提案を頂きました。木は永くその地に根差すため、色褪せることなく友好のシンボルとしてとても良いアイディアだと思い、メンバー一同実現したいと思いました。このセンターは、日本のODAで建設し日中友好のシンボル的な施設となっています。設立当初は日本からの教授も定期的に訪中し教えていたとのことでした。





その後の夕食では、中国日本友好協会副秘書長の程海波さんと、理事・友好交流部部長の張さんにより私たちの歓迎会をしていただきました。その席上で、私たちから 2022 年に日中青年共同宣言の案についてご提案させていただき、皆さんからの反応も上々でした。具体的な企画があればいろいろと協力をしていただけると思いますので、今後も密に企画案等のやり取りを行って参りたいと思っております。





11月23日は、朝から充実したスケジュールを組んでいただきました。まず、中華全国青年連合会（全青連）国際部の副部長の孟洋さんと会見を行いました。全青連は政府の委託で事業をしている組織でメンバーは約2,000人で組織されているとのことでした。事業としては、「インキュベーション施設見学」、「砂漠地帯での植林活動」、「母なる川を守るプログラム」、「2020年に全国の貧困人口をゼロにすること」等に取り組んでいるとのことでした。私たちの提案にも具体的な企画が出来次第、共に協働できるところは動いていきたいとのことでしたので、全青連の皆様とも今後積極的に継続交流を図って参りたいと思います。



その後、人民中国を訪問しました。人民中国では、総編集長の王衆一さんが会見に応じていただき、2022年の青年共同宣言の提案にとても評価をしていただきました。王総編集長からは具体的に事業として話を進めていく上では合意文書などを交わした方が良いなどのアドバイスも頂きました。具体例としては、①情報交換、②記事交換（「日本と中国」と「人民中国」の記事）、③イベント協力、④人的支援、などの分野で協力すると良いのではないかとの話も頂戴することができました。私たちの青年共同宣言の提案は、日中友好協会青年委員会のみならず、日本青年商工会議所（JC）など日本国内の他の青年組織へも働きかけを行いました。

きかけ、日本側と中国側の主要な青年組織が参画した形による、共同宣言の提案であることを視野にしていることも申し伝えました。



次に訪問したところは中国国際广播電台（CRI/中国国際放送局）です。日本中国それぞれのカルチャーを分かりやすくラジオで発信しているメディアです。最近ではポッドキャストのアカウントでの配信や、ソーシャルメディア向けのコンテンツ開発に力を入れているとのことでした。また、最近合併した CCTV では、今まで日本語チャンネルは無いとのことで、今後 CRI のスタッフが CCTV の日本語チャンネルに登場する可能性もあるかもし

れないとのことでした。私たち、青年委員会としては中国の若者文化や日々のニュースなどを日本国内で発信することを今後のキーポイントにしているため、今回の面談の機会を十分に生かして、次の展開に繋げて参りたいと思います。

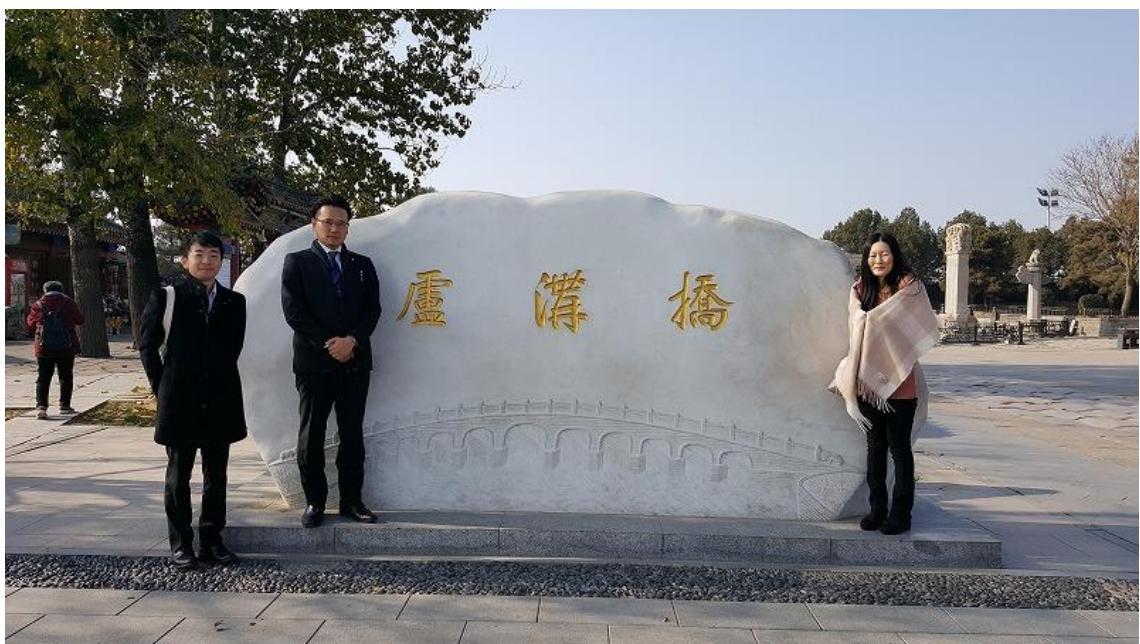


この日の最終訪問先は、人民日報（人民網）です。入口に大きな液晶画面で日中友好協会青年委員会の歓迎の画面があり、驚きと同時に大変感動致しました。見学コースになっているようで、入口には毛沢東から習近平までの歴代の国家主席が人民日報を読んでいる写真がズラッと並びその壯觀な展示でした。スタジオにも案内していただき大変貴重な中

国メディアの現場を見ることが出来ました。



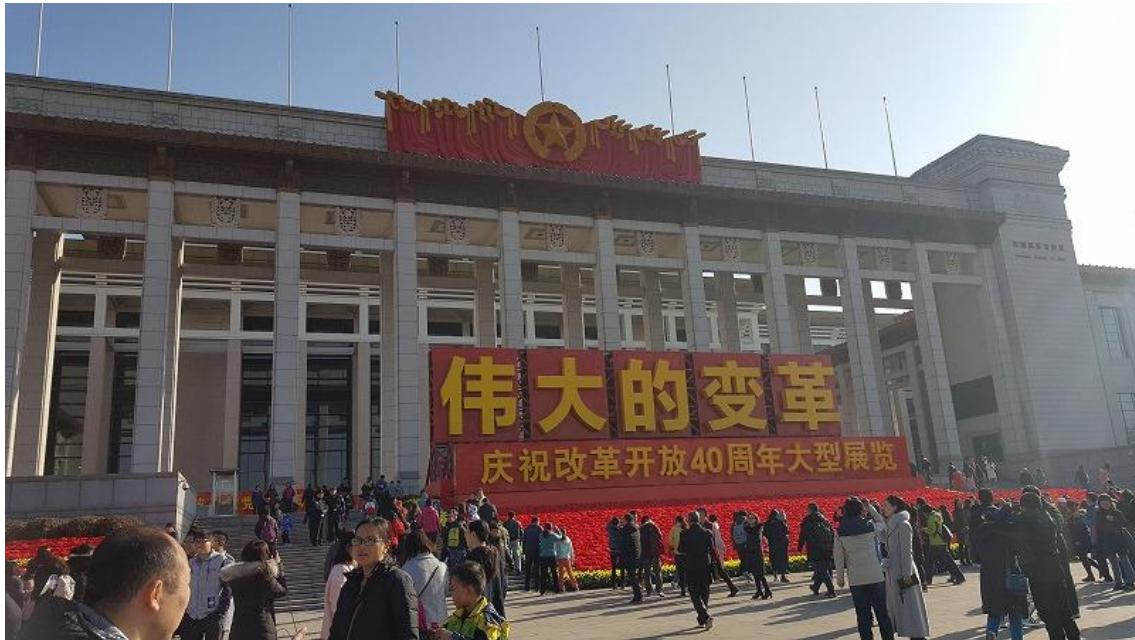
11月24日は、抗日記念館と盧溝橋、学生との交流を行いました。抗日記念館では、私自身も学生時代に訪問した、瀋陽の九・一八記念館のようなイメージをしていましたが、北京の抗日記念館は最近リニューアルされたそうで、戦争の悲惨さの中でも、比較的に見やすく展示されている印象がありました。以前は日本語の開設もあったそうですが、今は英語と中国語の解説文のみになっているとのことでした。近くには盧溝橋もある場所のため、徒歩で対岸まで盧溝橋を渡ってみたりしました。



夕方からは、北京大学、河北工業大学、北京第二外国語大学の学生と、静かなカフェにて車座形式で忌憚なく語らいました。人気のタレントは？と聞くと、「市内の看板を見ると一番分かると思いますよ」という返事があり、とても納得でした。そのほか、日中友好を卒業して社会人になると、日本同様に持続的な活動がなかなかイメージできないとの言葉もあり、日本と同じだと思いました。それと同時に、これだけネットで両国情報が入手し易い現代社会において、友好活動の意義と、当協会が日本社会から求められている“新しい役割”を見つけ出し明確にしなければならない、という課題も感じた次第です。



11月25日は、国家博物館で開催中の改革開放40周年特別展を見学しました。人民公社、農村の都市化、人の暮らしの変化など、様々な角度から中国の発展してきたあゆみが創意工夫あふれる形で展示されていました。期間限定の特別展示だったので、見ることが出来てとても良かったと思いました。





4日間、非常に充実した第1回目の青年訪中団となりました。今回、中国日本友好協会友好交流部の董丹丹さんにすべての行程をセッティングいただき、とても感謝しています。この場を借りて御礼申し上げます。

今回出会えた“人”の繋がりを継続させ、持続的に情報交換を行い、2022年までの長期的な視野を持ち、日々の活動に活かして参りたいと思います。